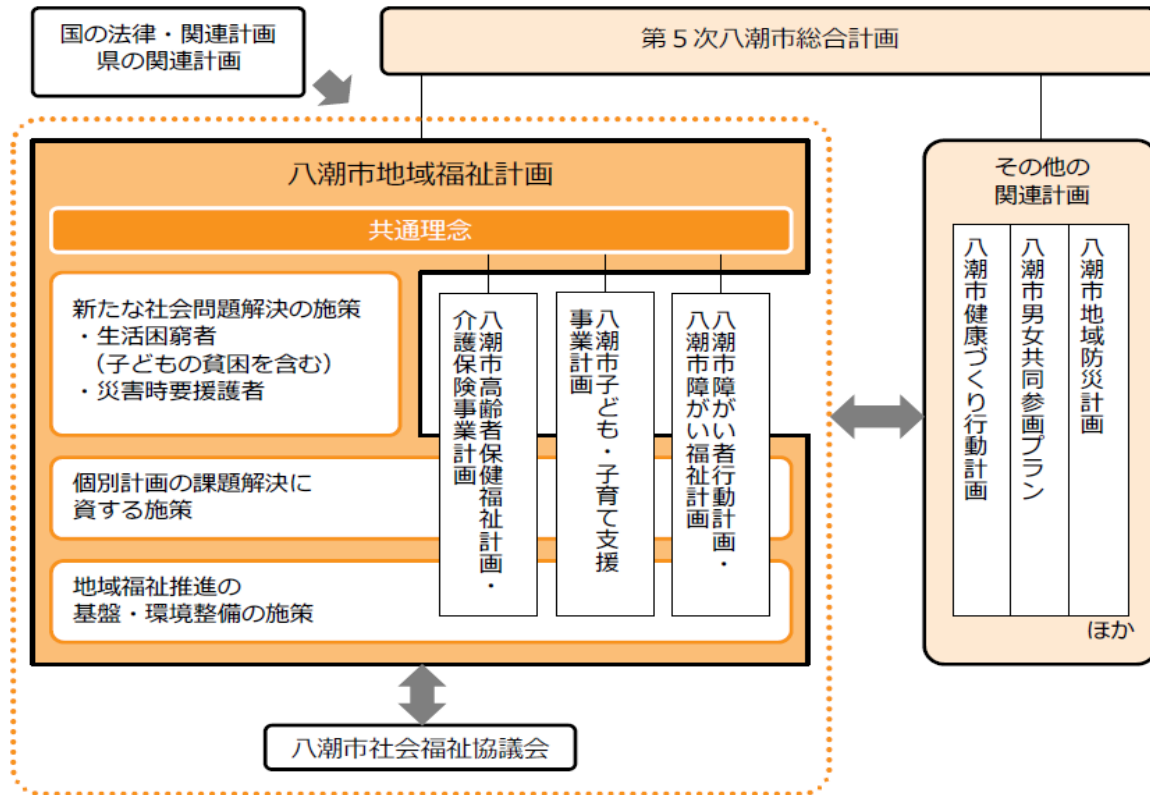
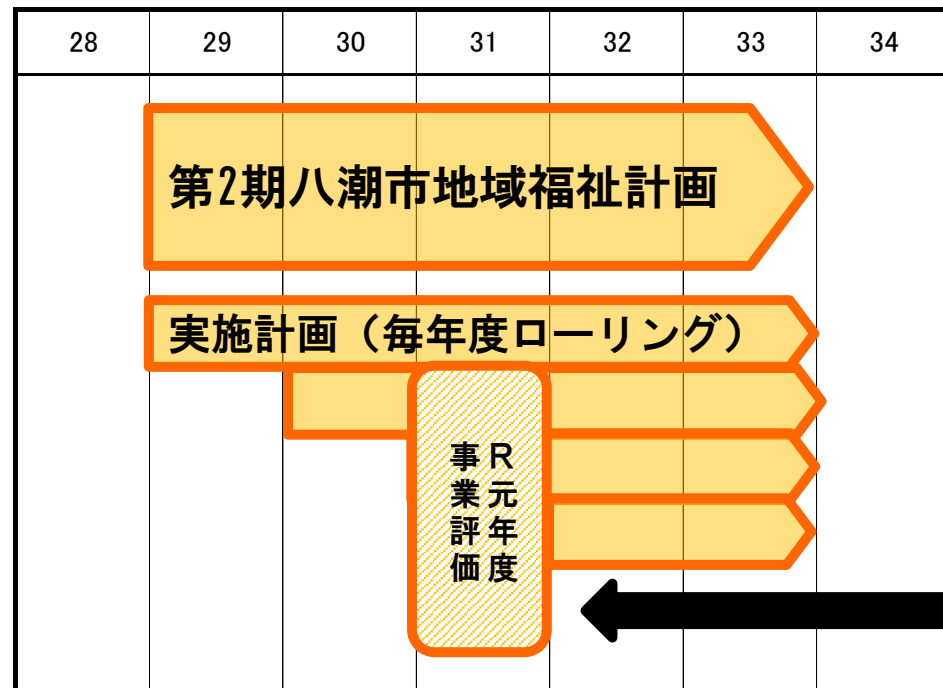


事業評価の概要について

八潮市地域福祉計画の位置付けについて



地域福祉計画の進行管理について



【(地)：地域福祉計画、(高)：高齢者保健福祉計画、(保)：介護保険事業計画、(子)：子ども・子育て支援事業計画、(障)：障がい者行動計画、(防)：障がい者福祉計画】

基本目標	1	ともに手を携え互いに支え合う地域づくりの推進	施策の内容	1	コミュニティ活動の促進
施策の注	1	地域における絆づくりの推進	事業展開	6	
施策の展開	多くの市民の地域への参加・参画を促進するため、地域福祉の基盤となるコミュニティ活動を活性化し参加・参画の機会を確保するとともに、コミュニティ活動団体のネットワークを充実します。 また、地域において、心よりとことろを持って、子育て中の親や乳幼児、児童、生徒、障がい者、高齢者などが集える居場所を確保するなど、地域の絆づくりに大切な思いやりの心を醸成するための交流の場や機会の充実を図ります。				
実施年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
施策の目標	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。
主な取組内容(実施計画)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)

令和元年度 取組結果についてご報告いたします。

目標	1	取組結果	課題や改善点
注	1		
施策の注	多くの市民の地域への参加・参画を促進するため、地域福祉の基盤となるコミュニティ活動を活性化し参加・参画の機会を確保するとともに、コミュニティ活動団体のネットワークを充実します。 また、地域において、心よりとことろを持って、子育て中の親や乳幼児、児童、生徒、障がい者、高齢者などが集える居場所を確保するなど、地域の絆づくりに大切な思いやりの心を醸成するための交流の場や機会の充実を図ります。		
施策の展開	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。		
実施年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
施策の目標	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供し、団体間のネットワークの充実を図ります。 様々な方が集い、交流や相談が行える居場所づくりを推進します。
主な取組内容(実施計画)	活動団体に活動発表及び交流の機会を提供する「やしおコラボフェスタ」を実施します。(地) 高齢者と障がい者がスポーツを通して健康を維持増進し、相互の交遊を深める「八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を実施します。(地・障) 認知症の方や家族、地域住民、専門職等が参加でき、集える場である「オレンジカフェ」を市内4か所の地域包括支援センターで実施して、障がい者が安心して参加できる環境を整えます。(高) 子育て中の親や乳幼児等が集える場を提供し交流を促進するため、「やしお子育てほっとステーション」をはじめ市内7か所で子育てひろばを開催します。(子) 障がいのある人が様々なスポーツを体験し、身体を動かす楽しさを知ってもらうとともに、仲間や施設職員の交流、ボランティアとの交流、理解を深める「障がい者スポーツ交流会わいわい」を実施します。(障)	市内で活動する団体等と市の協議により、第7回やしおコラボフェスタ実行委員会を組織し令和元年9月28日にコラボフェスタを開催し、市民等2,229人の参加があった。 令和元年6月22日に「第47回八潮市高齢者と障がい者のスポーツの祭典」を開催し、市民等約1,000人の参加があった。 オレンジカフェを市内4か所の地域包括支援センターで実施した。合計42回(新型コロナウイルス感染拡大防止のため6回中止)実施、延べ877人の利用者があった。 認知症サポーターを含むボランティアがオレンジカフェに83人の参加があった。 市内7か所で子育てひろばを合計1,440回開催し、合計52,634人の利用者があった。 子育て相談や情報提供、子育てに関する講習会を開催し、相談件数は323件、講習会への参加者数は3,548人、身体測定への参加者数は1,875人であった。 令和元年9月20日に「障がい者スポーツ交流会わいわい」を開催し、障がい者、支援者、ボランティア等225人の参加があった。	年々参加する市民活動団体等が固定化しつつある。そのため、市民活動支援コーナーの活用や施設を利用する団体に直接声をかけるなどして、多様な団体によりコラボフェスタが開催できるように、周知に努めるほか、コラボフェスタの内容や運営方法について検討をし、より市民団体の交流を図ることができるよう、工夫をする必要がある。 安全面の配慮が不足していたため、参加者が安心して参加できるように、安全面の配慮について検討していく必要がある。 新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら開催する必要があり、実施内容等について認知症地域支援推進員連絡会で検討を行う。 利用者の増加に伴い、相談内容も多様化しており、子育てひろば間の情報の共有化による利用者対応の統一化が必要である。 今後も円滑に事業を行っていくためには、ボランティアの活用や障がい者スポーツ指導員の育成など、運営スタッフの充実が必要である。